「ルポ・精神病棟」

（1970年3月5日から朝日新聞に連載）

僕の全く知らない重大社会問題が、足元にころがっていたことに打ちのめされた。
わが身の無知を悔いる。

「ここは病院の名をかたる人間の捨て場である」ことを思い知る

この取材以降、僕の記者人生が変わった！　　（当時３２歳）

ルポ 精神病棟

1 檻（おり）

まるで人間捨て場所

悪臭と寒気の中へ患者放置

「ルポ・精神病棟」の風景　その２

【ストーブ（病棟唯一の暖房）の向こうに僕の入れられた独房の扉が見える】
提供：朝日新聞社

「ルポ・精神病棟」の風景その３　「不潔部屋」

「ルポ・精神病棟」の風景その４
真夜中の大部屋……

入院者はここで寝て、ここで食事をとり、ここで内職をさせられた

精神病院に潜入してわかった！

♧病棟では自由意志も自己決定もことごとく無視され、ほぼ全員が無賃に近い労働を強要されていた。時々刻々が屈辱的時間だった。病棟の住民は委縮しきっていた。人生を諦めていた。

「この人々は現代の奴隷だ」と思った。

♧♧♧この精神病院が、聖路加病院の研修病院なのだ。

日本の精神病院の象徴：
「鍵」と「鉄格子」

大声出した患者に看護師が平手打ち
大阪の精神科病院（2019･5･31の朝日新聞）

大阪府立病院機構「大阪精神医療センター」（枚方市）は３１日、同センターの男性看護師が入院患者を平手でたたくなどして顔に全治１週間のけがを負わせたと発表した。今後、弁護士や看護の専門家らで構成する委員会を設置して原因を調査し、機構内の審査会で処分を検討するという。

同センターによると、５月１８日午後４時ごろ、４０代の男性看護師が、大声を出すなどしていた３０代の男性患者を個室の病室内で注意。しゃがみこんだ患者を計１０回ほど、平手でたたいたり、足やひざで蹴ったりしたという。同日に患者が「たたかれた」と訴え、病院側が室内のカメラを確認したところ暴行が発覚。看護師は「感情をコントロールできなかった」などと説明しているという。

同センターは３１日に会見を開き、岩田和彦院長は「あってはならないこと。重大かつ深刻に受け止めている。心から深くおわび申し上げます」と謝罪した。（吉川喬）

註：大阪精神医療センターは
大阪府の拠点精神病院です。

そして、3年前
神戸・神出病院のわいせつ虐待事件
さらに最近は、
東京の滝山病院の暴行事件

物事の「結果」には「原因」がある

1960年前後の精神保健政策に原因があるのは明らかだ。

○医療法の精神科特例（医師は他科の3分の1でいい。看護師は3分の2でいい）
○精神病院はどこに建てるのも自由
○精神科医でなくても精神病院の院長になれる
○医師以外でもオーナーになれる
○「医療金融公庫を使って精神病院を造ってください」（1960年7月融資開始）

これは厚生省が打ち出した愚かな国策。
かの暴力病院の
宇都宮病院は1961年設立。
大和川病院（安田病院）は1963年設立。

厚生省の政策の最大の失敗

「精神疾患の人々の収容」を盛大なビジネス（商売）にしてしまったこと

武見太郎の「牧畜業者」発言

牢屋型精神病院の乱立をいちはやく予想できる立場にいた日本医師会会長の武見太郎

1960年（昭和35年）11月21日
大分県医師会館で放談

大分合同新聞の高浦記者ら二人がそれを書き留めた

武見太郎の牧畜業者発言つづき

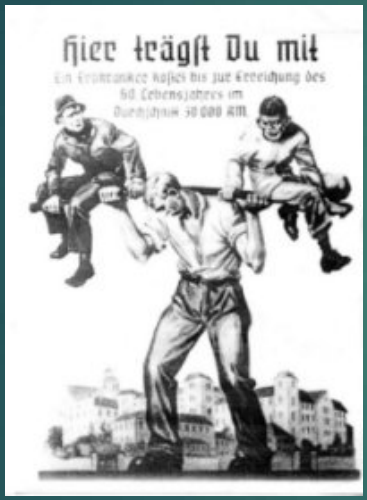
1964年（昭和39年）１１月２５日

別府市で開かれた第３回全国自治体病院学会シンポ「公立精神病院は如何にあるべきか」で高浦記者が武見牧畜発言を紹介

日本精神神経学会機関紙1970年１月号の「学会声明」がこれを引用して有名になる

1960年当時、精神病者は人間扱いされていなかった

正常な社会生活を送りえない精神障害者の不幸、平和を破壊されるその家庭の悲劇、われわれはその個々のケースに思いを致すとき、精神障害の引き起こすはかり難い惨劇に慄然とするのである。かように厖大な精神障害者群の存在と多額の経済的損失を含む有形無形の惨害を知るならば、精神障害の対策の重要性と、その緊急性について、もはや多言の余地はないであろう。（昭和21年7月29日厚生省公衆衛生局）



ナチスのプロパガンダ

今あなたが支えている遺伝病患者は

６０歳になるまでに

５万ライヒスマルク（今日の貨幣価値で約7千万円）もかかるのです

人間社会は、
こんな精神病観や排除思想を、
何百年も持ち続けてきた。

しかし、向精神薬の登場などあって

1960年ごろ、この病気は

コントロール可能だと考える精神科医が欧米でたくさん輩出した。

収容一辺倒の時代は終わった、はず、だが、

日本では精神病院の大増殖が始まった。

イタリアからの画期的ニュース（2017年1月）

【精神病院の時代は終わった！】

フリウリ・ヴェネツィア＝ジュリア州議会

「精神病院時代（1876～2017年）の終焉」式典

フリウリ・ヴェネツィア＝ジュリア州の人口122万、州都トリエステ

「イタリアが精神病院を全廃するらしい」
という情報を初めて日本に伝えた書

1985年出版　訳者：半田文穂

1986年

トリエステの街

旧サン・ジョヴァンニ精神病院

かつての病棟　いま幼稚園

（1986年撮影）

旧サン・ジョヴァンニ精神病院
院長邸宅が

旧入院者の共同住居に

街の中のグループホーム

グループホームの窓辺にて

イタリアの精神保健改革の父
フランコ・バザーリア　1980年没

「多くの精神科医が、重い統合失調症の患者を病院に入れて、完治してないといっては入れっぱなしにする。ところが、病院の外で生活するには、なにも完治する必要はない。
患者は専門家の支援のもとで自分の狂気と共存できるのだ。
精神科医の変革を待っていたって何も変わらない。今は、大きな文化運動を起こして、精神科医が変わらざるを得ない状況をつくることこそが大事なのだ」

1971年から78年までの実践で
精神病院を使わずに患者を支えられることを証明

１．ある数の患者を退院させ、それに見合う職員も一緒に出して、拠点としての地域精神保健センターをつくった。

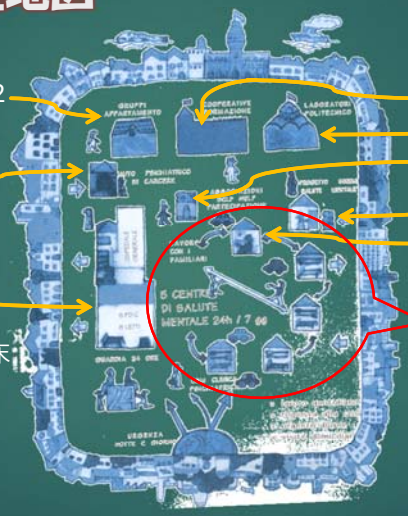
２．1975年にできたこのセンターは、当初から２４時間オープン年中無休だった。

３．最終的に７カ所のセンターが出来て、病院はほぼ空になった。

あなたの住む街にもこのようなマップがほしい

トリエステ精神保健地図

トリエステの人口約２４万



グループホーム（１２軒７２人）

刑務所への出前診療

総合病院
（精神科診療サービス８床
昼夜に関係ない救急活動）

就労協同組合

工芸工房

当事者自助グループ

女性のための精神保健

家族との協力

５つの精神保健センターは
２４時間３６５日稼働
- ひとつはトリエステ大学医学部が運営 -
（無休、危機介入、昼間の救急、往診）

トリエステ精神保健ガイドより（翻訳：大熊一夫）

全医療保健予算の４．９%が精神保健に
これは住民一人当たり５５ユーロ（日本円にして7～8千円）

1975年にできたトリエステ初のバルコラ地区精神保健センター
これが精神病院に代わる拠点。右隣りは5つ星ホテル

精神病院に代わる
地域精神保健健サービスを
日本に根付かせるためにやるべきこと

まず滝山病院や神出病院を廃院にすること。監獄病院の存在を許しながら、地域精神保健サービスを充実させるのは財政的に不可能だ。監獄病院といえども、社会的経費が掛かる。

国賠訴訟原告の伊藤時夫さんは福島原発の近くにある精神病院に40年も入れられていた。かれは原発事故のおかげで、その精神病院にいられなくなって解放された。かれの40年間の入院費は、時価総額でざっと１億５千万円！。

滝山も神出も入院費をちゃっかりとっている。こんな病院に厖大な医療費を支払うようでは、地域精神保健サービスにまわすカネはない。

監獄型精神病院を一掃する方法は？
厚労省がその気になれば、できる。

私立精神病院が日本のように多い国は世界にない。監獄型精神病院問題の解消に前例はない。

しかし、私立老人介護施設の改革なら、北欧に学ぶべき前例がある。

1997年、スウェーデン・ストックホルムのベッドタウンのソルナ市にある私立介護老人施設『ポールヘムスゴーン』で床ずれが発生した。

若い介護職員サーラ・ヴェグナートは国営放送に電話した。

映像カメラマンが夜勤帯にやってきて床ずれ現実を撮影し、全国放送で流した。

滝山病院事件に似ているが、ここから先が日本と違う。

この老人ホームは建物は市のもので、デンマークの掃除会社が運営を請け負った。

ソルナ市は、掃除会社との契約を破棄。国会は、内部告発奨励と告発者保護をうたった「サーラ法」を可決さた。

「床ずれ」はスウェーデン社会では劣悪介護の象徴。
滝山病院事件では噴火口のような巨大床ずれが放映された。

ストックホルムのベッドタウン
ソルナ市の高齢者介護施設
「ポールヘムスゴーン」

厚生労働省は、精神病院や勤務医に対し、保険医療機関の取り消し、保険医の取り消し、の処分をすることができる。

埼玉県にあった朝倉病院は2001年に保険医療機関の取り消し処分を受けて廃院になった。

朝倉重延院長は、保険医を取り消された。

ところが、医師の処分は五年間という悪しき慣行があり、

ふつうは再申請すれば復活できる。重延は、それで生き返って、滝山病院の院長になった。

こんなことが許されるなら、改革は絶望！

滝山病院や神出病院をつぶせないようでは
日本の精神保健に未来はない！

終